

【本全集の特色】

- 1……小説をはじめ、戯曲・随筆・翻訳・ラジオドラマ・日記・座談・初期作品を網羅的に収録した、定本となりうる全集。旧全集(三一書房版・一九六九年刊)の二倍の収録量。
- 2……第1巻〜第9巻の小説は、編年体の編集を採用。作品の発表順に収録し、久生十蘭の軌跡がたどれるように構成。生前没後を問わず、いずれの単行書にも未収録だった小説作品40数編を含む(うち長篇小説11編)。
- 3……「湖畔」「海豹島」等の改訂おびただしい小説作品については、六百枚を超える異稿を第10巻に収録。久生十蘭の特徴である改稿過程をたどることが出来る。
- 4……巻末には、編集委員による詳細な解題を収録。
- 5……各巻には、多彩な執筆者による書き下ろしエッセー二本を掲載した「月報」を付す。
- 6……最終巻には、年譜・書誌・索引を収録。

● 造本・体裁 ●

A5判 / 上製布クロス装・箔押し2色 / 貼函入り

各巻平均650頁 / 本文12級2段組

月報8頁挟み込み

予価・各巻9975円(税込)

● 装幀 ●

柳川貴代(Fragment)

● 第1回配本 ●

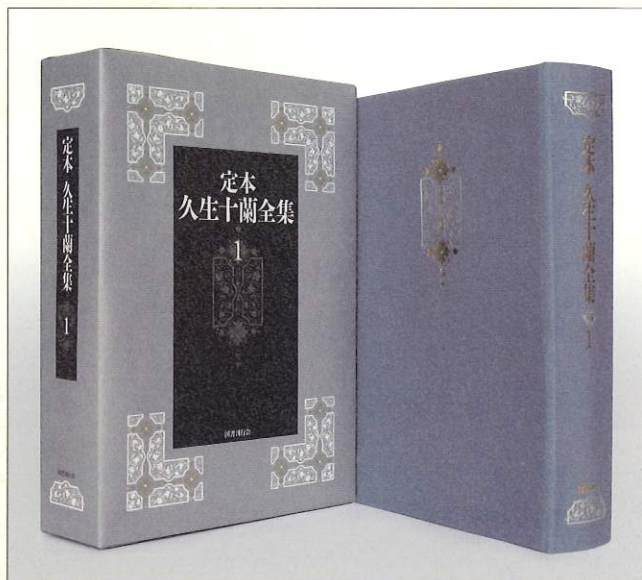
第1巻定価9975円(税込)

2008年10月10日発売

第2回配本 第2巻2009年1月発売

以降、巻数順に年4冊配本予定

完結予定2011年



国書刊行会

〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15

電話:03-5970-7421 ファックス:03-5970-7427

帖合・書店印

国書刊行会

定本 久生十蘭全集【全11巻】の定期購読を予約します。

申込書

お名前

ご住所

お電話

*必要事項をご記入のうえ、書店へお渡しください。

歿後50年記念出版

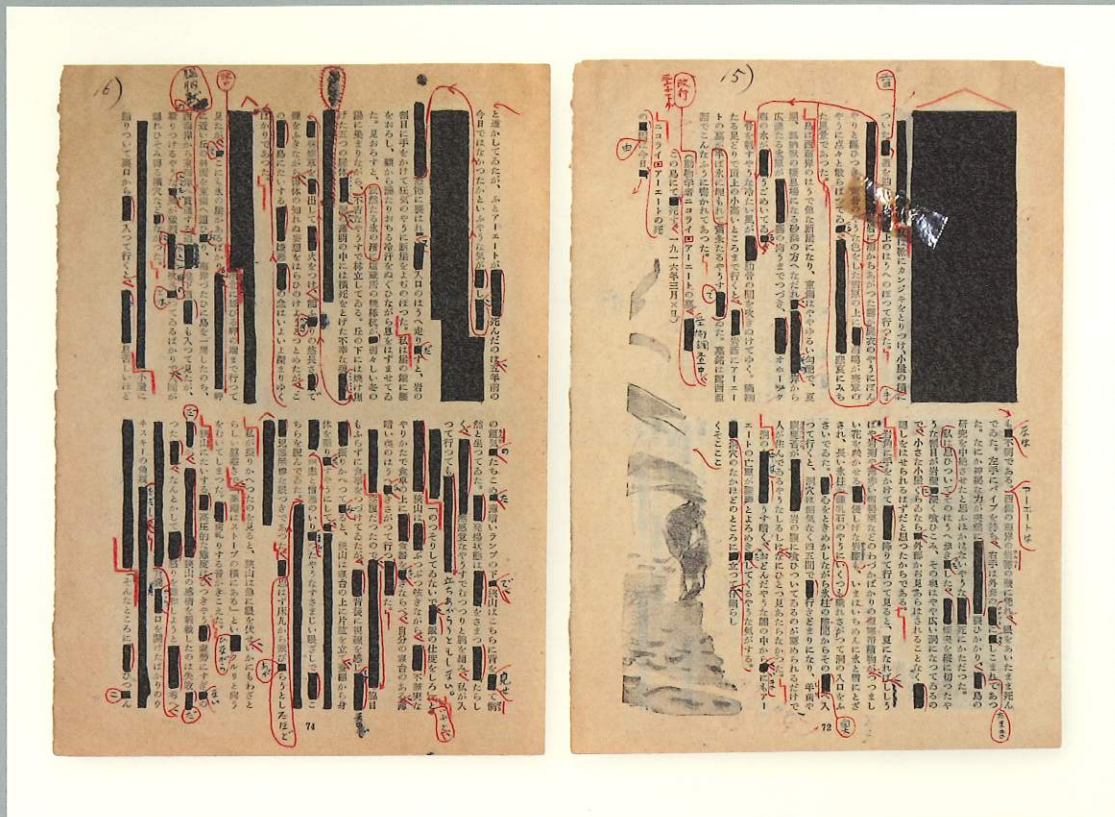
定本 久生十蘭全集

全11巻

【編集】

江口雄輔・川崎賢子・沢田安史・浜田雄介

国書刊行会



『海豹島』発表誌の切り抜き。
十蘭によって、おびただしい改訂が書き込まれている。



刊行の言葉

編集委員◆江口雄輔・川崎賢子・沢田安史・浜田雄介

久生十蘭（一九〇二—一九五七）は、かつて、えらばれた少数の幸福な読者のためにある作家と呼ばれた。だが昨今の読書界の事情に鑑みるならば、没後半世紀を閲してふたたびあらたな全集が編まれ、各界の読み巧者がその定本全集の刊行を待ちかまえているとは、久生十蘭こそが幸福なえらばれた書き手であり、そのテキストには歴史的時間に摩滅させられることのない稀有な生命があるといわなければならないだろう。わたしたち読者はその幸福と読書の愉悦をひそやかにわかちあうことになる。

このたびの定本全集には、単行本および先行する全集、アンソロジーの類におさめられたことのない、十蘭の熱烈な読者にとってもおそらく未知なるものであったろうテキストが、おびただしく収録される。しかしながらじっさいのところ編者一同にとっても、長年にわたりテキストを蒐集し、本文を校訂し、異本を比較し、読みつくしてなお、久生十蘭という鬼才の表現はいつたいどこからあらわれいで、どこまで時空を超えて羽ばたくものやら、その全体像は、はかりがたい。

本全集は、古くからの愛読者にも新世代の読者にも、発見と驚愕をもたらすものになるだろう。それだけはまちがいない。

（文責・川崎賢子）

『定本 久生十蘭全集』
推薦の言葉

なん度でもよみがえる久生十蘭 中野美代子

三一書房版『久生十蘭全集』が出たのが一九六九〜七〇年。この全集未収の『コレクション・ジュラネスク』（薔薇十字社・出帆社）が出たのが七三〜七四年。『久生十蘭傑作選』（社会思想社・教養文庫）が出たのが七六〜七七年。思えば、一九七〇年代は、退屈しないですんだ時間だったのだ！

その後も、単発的にぼつんぼつんと出たけれども、未刊のものが多いのは知っていた。いらいらして古い初出誌からコピーしてもらったこともある。

今度こそ完全な（！）全集であるとの国書刊行会の意気ごみだ。没後半世紀にして、ふたたびよみがえる久生十蘭を、どう迎えるべきか？ うれしいけれども、十蘭の秘密がすべて暴かれるのは、残念という、ケチな気分にもなる。

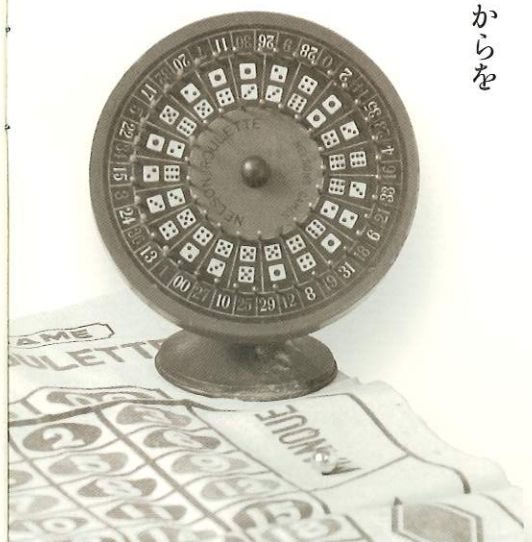
いやいや、十蘭はなん度よみがえっても、凝りに凝ったあのフィクション世界の蔭にみずからを韜晦させ、私たちを酔わせてくれることだろう。

「幻の作家」の全貌 橋本治

久生十蘭は「幻の作家」である。いることは確かだが、どこにいるのかが知れない。その前に、作品の全体像が知れない。一九六九年に三一書房から久生十蘭全集が刊行され、その後も薔薇十字社、出帆社からコレクション・ジュラネスクとして作品群の刊行が続いて、それも途中で終わったような形になっている。だから私は、久生十蘭は全体像の知れない「幻の作家」のままで終わるのかとも思っていた。ところが今度、知れる限りの作品を網羅した全集が登場するのだという。とても嬉しい。こういう作家がいることを、もつとよく知ってほしい。と同時に、そうなくても、久生十蘭はまだ「幻の作家」だと思う。彼がどこにいるのかは分からない。「作家の全貌なんてものが知れようが知れまいがどうでもいい」という姿勢を買った人の作品群は、永遠に「高貴な幻」となって輝くだろう。それが嬉しい。

珠のありか 堀江敏幸

多様多彩な言葉の運用と自在なプロットで読者を魅了しておきながら、久生十蘭は時にそれを破壊する。あつげなく、残酷に。何から何までうわべだけの完璧な幻ですよという顔で読者を煙に巻いて、大切な宝石は背中にもわした手のなかに隠し持つ。ところが読者には、その宝石の光がはつきり見えるのだ。珠のありかは、漏れ出る光の暈ですぐにわかる。ならば彼は正直なのか、それさえ計算尽くの大法螺吹きなのか。答えは、この全集のなかにある。



緻密にして大胆 三浦しをん

はじめて読んだ久生十蘭の作品は『湖畔』だ。あるアンソロジーに収録されていたのだが、端整かつ異様な迫力を宿した文章といい、ほのかな官能の香りといい、ひとときわ輝く暗黒の星のような小説だった。アンソロジーのなかで、『湖畔』だけを折に触れて何度も読み返さずにはいられなかった。

初読時は素直に語り手の話を傾けていたが、そのうち「おや」と思った。

「おや、もしかしてこの話は……」と。

緻密にして大胆という離れ業を目の当たりにし、久生十蘭のほかの作品も読んでみた。『顎十郎捕物帳』『ハムレット』『紀ノ上一族』……。どれひとつとして似たような作品はなく、ますます魅力にとりつかれた。

今回、『定本 久生十蘭全集』が刊行されると知り、本当にうれしい。ラインナップを見て、まだまだ未読の作品がたくさんあることがわかった。予約注文し、少しずつ読み進めるのが、いまから楽しみでならない。

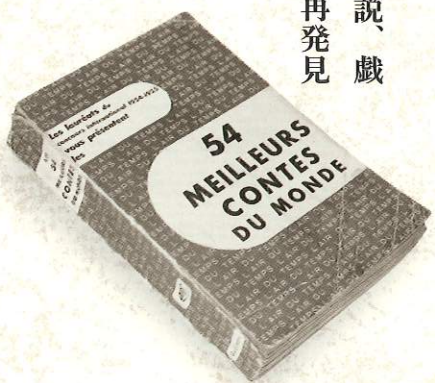
この機会に、よりいっそう多くのかたが、久生十蘭の作品のすごさに触れられることと思う。『湖畔』をどう読んだか、読者同士でぜひ語りあってみたいものだ。

確実な文化への旅 Cécile Sakai(セル・サカイ)

久生十蘭といえば、夢野久作、小栗虫太郎など、「新青年」を中心に、一世を風靡した作家の一人として、知られている。その記憶が、この全集の刊行によって、没後半世紀たった今、よみがえる。繊細なプロット構成に、フロイトのいうウンハイムリッヒ（不気味なるもの）をちりばめ、フランス風のコント的世界を展開したこの作家は、二十世紀前半の知的精神を象徴する。

十蘭は、三〇年代のアヴァンギャルドの波に乗って、長期のパリ滞在を果たしている。フランス語を習得し、物理学校、技芸学校に通い、当時の大俳優シャルル・デュランに師事したという。その体験を生かして、帰国後、『ルレタビーユ』や『ファントマ』といった、当時フランスで最も流行ったスリラーものを訳してもいる。また、国際派であったにも関わらず、一九五二年、五十歳にして、歴史小説『鈴木主水』で直木賞を獲得している。

この全集に収められている様々な作品は、コント、推理小説、歴史小説、捕物帳、翻訳小説、戯曲、エッセーと、久生十蘭の多彩な才能をはつきりと浮き彫りにしている。その多彩さの再発見は、今はなつかしい、確実な文化への旅でもある。



久生十蘭讃

中井英夫

テレビで放映されたことから久生十蘭を捕物帳作家と思いきり、戦前の二、三の作から推理作家だとみる向きも多いが、その本質はまったく別なところにあつて、怪物とか小説の魔術師とかいわれるにふさわしい、変幻自在の作風を示した。死ぬまで、ある一筋のことをかたくなに守り通したその態度は、一種壮烈な趣きがあつて、文壇的には当然孤立した地位にいたが、その生前から一群の、非常に特殊な読者層を作り出している。それは、ホームズの信徒のシャーロックアンに倣つていえば、ジュラニアンとでもいふべき人たちで、この人々の誇りと訝しみは、こんなにも豊醇な美酒が、ただ自分らだけのために用意されていいものだろうかという点にあつた。舌の上で惜しげもなく深い芳香を放ち、これほどのこくとまろみを持つ小説がいつこうに珍重されないというなら、間違っているのは当世風な文壇小説のほうだという確信——実際、久生の作品には、一度その玄妙な味わいに触れると、もう世に行なわれていた小説のたぐいは、水っぽいやら酸っぱいやらで手を出す気もしくなるところがある。いきおい、ジュラニアンは今日でもなお少数派だが、とびきり贅沢なものを味わつたという満足感にいつもひたされているというなら、それは羨ましい少数派であらう。

(久生十蘭論より)

都筑道夫

なにを書くか、ということしか考えない作家が、いまの日本には多いから、十蘭のように、もう一段階、どう書くかを考える作家の作品は、読みとるのに手間がかかるだろう。だからといって、わすれていいというものではない。

(「無惨やな」についてより)



澁澤龍彦

久生十蘭の本質は、アルファからオメガまで、ただスタイルのみに在るので、スタイルを味わうという、小説本来の楽しみを味わうことを知っている人でなければ、十蘭の小説のよい読者とは決してなり得ないにちがいないのだ。『玉取物語』の飄逸な擬古文体から、『姦』のコンパクト張りの電話の女の洒落たモノローグまで、十蘭の堂に入った語り口の技巧と洗練は、エンタテインメントとしても、私たちを文句なしに楽しませてくれる。

私は、一九七〇年の現代ほど、スタイルが無視され、馬鹿にされ、見るも無残に蹂躪されている時代はないと考えるが、こういう猥雑な似而非小説家のまかり通っている時代にあつてこそ、スタイルリスト久生十蘭の真価は、いよいよ底光りを加えてくることであらう。

(「偏愛的作家論」より)

柴田錬二郎

そこで、最後に、私は、日本に於ける戦後文学の最高傑作を、一篇だけ挙げておく。「母子像」という短篇である。これは、「純文学」作家によって書かれたのではなく、いまはその名も忘れられかけている久生十蘭という「大衆作家」によって書かれている。

二十枚程度の小説であるが、その出来ばえは、森鷗外にも、メリメにも、ポオにも、リラダンにも匹敵する。一字一句みがきぬかれた、文字通の珠玉の短篇である。(……)敢えて、私に云わせれば、この小説こそ、埴谷雄高らの「生と存在の現実にとどまらぬ変革」を一行も判らぬところもなく描ききっているではないか。主題は透明であり、作者のイマジネーションはその透明な空間を、大きくはばたいている。

(「純文学は面白くない」より)

向井敏

久生十蘭が『無月物語』をはじめ、『鈴木主水』『うすゆき抄』『玉取物語』『無惨やな』など、彫琢のかぎりをつくした時代ものの名篇を発表したのは、昭和二十年代後半、その晩年近くになってからである。

言葉はよく選ばれ、構成は巧緻、印象は鮮烈、非の打ちどころのない逸品ぞろいで、これらにくらべれば、同じく時代ものの短篇を数多く書いた森鷗外や芥川龍之介も物の数ではあるまいと思われるほどなのに、当時も、そして今でも、「純」文学としては遇されず、『日本近代文学大事典』あたりでも、「大衆文学のまれに見る高水準の作品」と評するにとどまっている。

〔贅沢な読書〕より

実相寺昭雄

青春の記憶を彷彿するだけでは寂しい。わたしが日比谷公会堂に佇むときに、時空を超えた魅力をおぼえるのは、久生十蘭の世界に魂を奪われているからだろう。

『魔都』は、昭和十二年秋から『新青年』に連載された。その年に、わたしは生まれている。尚、阿部正雄から久生十蘭という名前を使い始めたのは、その前年である。たった一日の事件を、錯綜する綾に絡めて描いた『魔都』は、日比谷の鶴の噴水と市政会館が象徴であり、めくるめく帝都の闇に誘う高速のメリーゴーランドである。映画化したい、という望みをかかえて、わたしは朽ちるのだろう。フランスに四年間滞在し、演劇やら映画の濃密な空気を吸った十蘭は、日比谷にジゴマ、プロテアといった怪人たちの夢の在処をさぐっているのだ。いま日比谷公会堂は、なおそんな夢に、息づいている。

〔青春の日の文化の殿堂だった〕より



塚本邦雄

最初の感動は抜きがたいものであり、三一書房刊の全集が世に出て、その中の月報に短文を認めるため収録作品を刺さず読み終った時も、私にとつて「姦」「西林図」「無月物語」「蝶の絵」「鈴木主水」「野萩」こそ久生の精粹であり、これに比肩するものはわづかに「ハムレット」一作と考へてゐた。噴ふべき浅読み、栄耀に餅の皮剥ぐたくひであつた。剥いた皮の「だいこん」はもとより「キャラコさん」も「手紙」も「川波」も、さては「泡沫の記」「ノア」「悪の花束」、あるひは「金狼」「顎十郎捕物帖」にいたるまで、一つとして十蘭の精粹ならざるはなく、どのやうな軽い読物にも粹で漉され、雅で磨かれ、聖なる悪意で醸された一言一句、一行一章は紛れもない。

〔蒼鉛塵遊曲〕より

草森紳一

十蘭にはペダンチズムの魅力がある。吟味の畏にかかる時、十蘭の作家としての腕に唸らざるをえないだろう。彼のペダントの内実は、九割のホントと一割のウソをふくむからである。ウソを発見した時は、まさにその凄腕に唸る時である。ここにも消しと生かしの同時陰影が彫られている。十蘭は語るより彫る作家である。彼のペダントは、それ自体楽しいが、けっして裝飾冗舌ではなく本筋とつながっている。楽しむにしても、油断がならない。

〔伴狂への道〕より

山田風太郎

〈オール讀物〉四月号買い来り、久生十蘭の「勝負」よみ驚倒。わが創作意欲ファンサイさるを感ず。

〔戦中派動乱日記〕より

久生十蘭略年譜

- 一九〇二年(明治三十五年) 四月六日、函館市元町に生まれる。本名・阿部正雄。
- 一九〇八年(明治四十一年) 六歳 函館区立弥生尋常小学校入学。
- 一九一五年(大正四年) 十三歳 北海道庁立函館中学校入学。
- 一九一九年(大正八年) 十七歳 東京滝野川の聖学院中学校三年に編入学したが、中途退学。
- 一九二〇年(大正九年) 十八歳 帰郷し、函館新聞社に入社、記者となる。
- 一九二八年(昭和三年) 二十六歳 新聞社を退いて、東京の岸田國士、土方與志のもとに赴く。
- 一九二九年(昭和四年) 二十七歳 新築地劇団旗揚げ公演の演出助手を務める。シベリア鉄道を利用してパリへ向かう。
- 一九三三年まで滞仏。
- 一九三三年(昭和八年) 三十一歳 帰国。新築地劇団演出部に所属。トリストラン・ベルナルルのコントを『新青年』に翻訳。
- 一九三四年(昭和九年) 三十二歳 友田恭助・田村秋子の築地座に協力。
- 『ノシヤラン道中記』を発表。
- 一九三六年(昭和十一年) 三十四歳 『金狼』を発表。初めて久生十蘭名を使用。
- 一九三七年(昭和十二年) 三十五歳 久保田万太郎、岩田豊雄、岸田國士を發起人として結成された文学座に参加。
- 『黒い手帳』『魔都』を発表。
- 一九三九年(昭和十四年) 三十七歳 『新青年』に連載中の『キヤラコさん』で第一回『新青年賞』を受賞。
- 『顎十郎捕物帳』『海豹島』を発表。
- 一九四〇年(昭和十五年) 三十八歳 『葡萄蔓の束』が第十一回直木賞候補作となる。
- 『平賀源内捕物帳』『女性力』を発表。
- 一九四一年(昭和十六年) 三十九歳 『新青年』編集部要請で中支へ従軍する。『魚雷に跨りて』を発表。
- 一九四二年(昭和十七年) 四十歳 三ツ谷幸子と結婚。
- 『三笠の月』が第十五回直木賞候補作となる。
- 一九四三年(昭和十八年) 四十一歳 『遺米日記』が第十六回直木賞候補作となる。
- 『真福寺事件』が第十七回直木賞候補作となる。
- 一九四四年(昭和十九年) 四十二歳 南方より帰国。
- 『内地へよろしく』『少年』を発表。
- 一九四五年(昭和二十年) 四十三歳 会津若松市へ疎開。
- 『平辞』を発表。
- 一九四六年(昭和二十一年) 四十四歳 『ハムレット』『黄泉から』を発表。
- 一九四七年(昭和二十二年) 四十五歳 『だいこん』『予言』を発表。
- 一九四八年(昭和二十三年) 四十六歳 『ココ泉アリ』を発表。
- 一九四九年(昭和二十四年) 四十七歳 『春雪』『風流旅情記』を発表。
- 一九五〇年(昭和二十五年) 四十八歳 『勝負』『新西遊記』を発表。
- 一九五一年(昭和二十六年) 四十九歳 『十字街』『玉取物語』『鈴木主水』を発表。
- 一九五二年(昭和二十七年) 五十歳 『鈴木主水』で第二十六回直木賞を受賞。『うすゆき抄』を発表。
- 一九五三年(昭和二十八年) 五十一歳 『我が家の楽園』を発表。
- 一九五四年(昭和二十九年) 五十二歳 『真説・鉄仮面』『母子像』
- 『あなたも私も』を発表。
- 一九五五年(昭和三十年) 五十三歳 『ひとい煙』を発表。
- 『ニューヨーク・ヘラルド・トリビューン』紙主催、第二回世界短編小説コンクールで『母子像』が第一席となる。
- 一九五六年(昭和三十一年) 五十四歳 『無惨やな』『奥の海』を発表。
- 一九五七年(昭和三十二年) 五十五歳 『肌色の月』を発表。
- 十月六日、食道癌のため永眠。



『定本 久生十蘭全集』 全巻内容

◎色字は三書房版「久生十蘭全集」未収録の作品。*は長篇。
◎第1巻より第9巻の小説(一部戯曲も含む)は編年体をもって編集。

第1巻【小説Ⅰ】1933—1938

ISBN978-4-336-05044-1

- *ノシヤラン道中記 つめる 名犬 黄金遁走曲 義勇花白蘭野
- *金狼 天国地獄両面鏡 黒い手帳 湖畔 魔都 妖術
- お酒に釣られて崖を登る話 戦場から来た男 花束町壱番地

解題◆江口雄輔

第2巻【小説Ⅱ】1938—1939

ISBN978-4-336-05045-8

- *新版八犬伝 刺客 モンテ・カルロの下着 モンテカルロの爆弾男
- *キヤラコさん 顎十郎捕物帳

解題◆川崎賢子・沢田安史

第3巻【小説Ⅲ】1939—1940

ISBN978-4-336-05046-5

- 海豹島 教訓 妖翳記 だいこん 墓地展望亭 昆虫図 地底獣国
- 贖罪「女傑」号 犂氏の友情 カイゼルの白書 赤ちやん
- 娘ばかりの村の娘達 白鯨模様印度更紗 心理の谷 月光と硫酸
- 暢気オペラ 平賀源内捕物帳 お嬢さんの頭 酒祝い 葡萄蔓の束
- ところてん レカミエー夫人 浜木綿 大龍巻 白豹

解題◆浜田雄介・沢田安史



第4巻【小説Ⅳ】 1940—1948

ISBN978-4-336-05047-2

女性^{*}の力 魚雷に跨りて 蜘蛛 フランス感れたり 北海の水夫^{プロ}
巫術 ヒコスケと艦長 地の霊 支那饅頭 雲井の春 花賊魚
三笠の月 海軍要記 英雄 消えた五十万人 紀ノ上一族 国風
遣米日記 豊年 亜墨利加討 村の飛行兵 村の飛行兵(人形劇版)
隣響 公用方秘録二件

解題◆川崎賢子

第5巻【小説Ⅴ】 1944—1946

ISBN978-4-336-05048-9

爆風 第〇特務隊 海図 内地へよろしく 白妙 効用 要務飛行
少年 新残酷物語 獵人日記 雪 花月 弔辞 母の手紙
祖父おちやん 橋の上 その後 南部の鼻曲り 皇帝修次郎三世
幸福物語 花合せ 狸がくれた牛酪

解題◆川崎賢子

第6巻【小説Ⅵ】 1946—1948

ISBN978-4-336-05049-6

半未亡人 ハムレット 蛙料理 黄泉から 水草 だいこん^{*}
おふくろ ブウレ・シャノアヌ事件 風流 西林図 すたいる^{*}
予言 フランス伯N・B 皇帝修次郎 おふくろ 骨仏 野萩
田舎だより ココニ泉アリ 貴族

解題◆川崎賢子

第7巻【小説Ⅶ】 1949—1950

ISBN978-4-336-05050-2

春雪 手紙 黄昏日記 カストリ侯実録 復活祭 巴里の雨^{*}
風祭り 三界万霊塔 淪落の皇女の覚書 蝶の絵 氷の園 ノア^{*}
勝負 妖婦アリス芸談 あめりか物語 女の四季 風流旅情記

解題◆浜田雄介

第8巻【小説Ⅷ】 1950—1954

ISBN978-4-336-05051-9

無月物語 新西遊記 十字街 信乃と浜路 姦 白雪姫
フランス事件 南極記 玉取物語 鈴木主水 泡沫の記 悪の花束
うすゆき抄 重吉漂流紀聞 死亡通知 海難記 藤九郎の島
美国横断鐵路 雪原敗走記 幻の軍艦未だ応答なし 我が家の楽園
再会 影の人 青髻二百八十三人の妻 或る兵卒の手帳
天国の登り口 大赦請願 かぼちゃ 皇帝の御齒薄

解題◆浜田雄介

第9巻【小説Ⅸ】 1954—1957

ISBN978-4-336-05052-6

真説・鉄仮面 母子像 ボニン島物語 あなたも私も 人魚^{*}
海と人間の戦い ひどい煙 われらの仲間 雲の小徑 無惨やな
春の山 川波 奥の海 虹の橋 一の倉沢 不滅の花 雪問^{イシモルナ}
呂宋の壺 肌色の月 喪服 いつまたあう

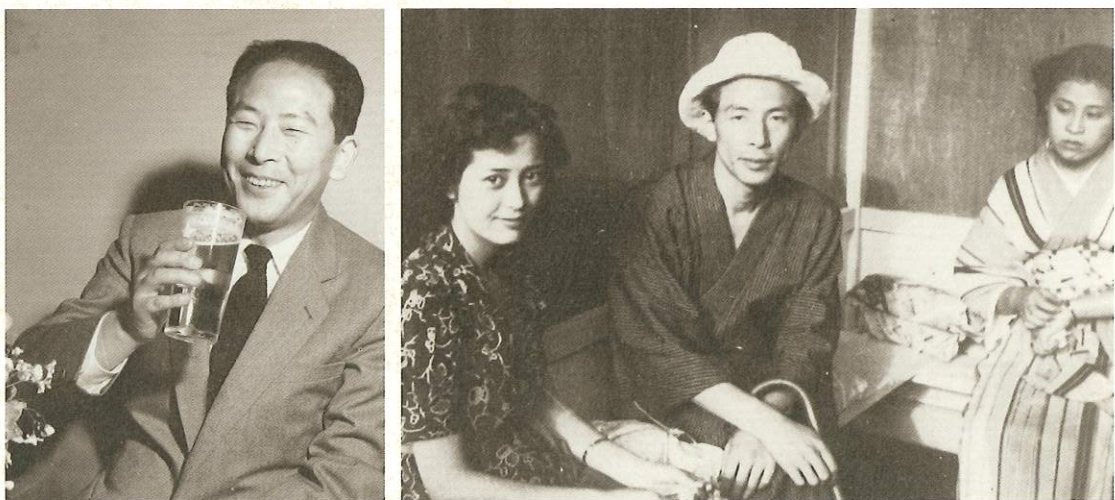
解題◆江口雄輔



第10巻 【初期作品・隨筆・放送台本・日記・異稿】

ISBN978-4-336-05053-3

東京への突入 東京還元 短評 悪魔 『赤首宿』以後 東京の春
 南京玉の指輪 冬の夜は長い 剪花 啞 VISION TO—
 カプリース 虜 タバコの話 伝説・芥九太夫 植物園 蠶
 アヴオゲルの夢 典雅なる自殺者 喜劇は終つたよ
 るのしかてふ さいかちの実 ぜじゆくり 素劇拝見
 へんな島流し 胃下垂症と鯨 彼を殺したが…… 喧嘩無常
 鈴蘭の花 な泣きそ春の鳥 壁に耳あり ぷらとにつく
 オペラ大難脈 植物の半肯定論法 文芸週欄寄稿家招待茶話会記
 未だ見ぬ(築地) やりきれぬ頭 千疋屋店頭 弱つた思ひ出
 死顔のお化粧、泣きだした日本人の会衆 味噌 エキストラ、その他
 つまらぬ『狼』 歳晚祈念、佐藤春夫の『新年の祈禱』に娯いて
 函館景物記四、元町界限 蛇の卵 亡霊はTAXIに乗つて
 骨牌遊びドミノ 秋霧 フランスの立待岬より 野砲のワルツ
 任侠と勲章(堀口久萬一氏と語る) 世界夫人(福島けい子夫人と語る)
 曇後晴(藤原咲平博士と語る) 絵入小説(吉屋信子女子と語る)
 悲劇供養(天野光子女子と語る) 薔薇の騎士(秦豊吉氏と語る)
 地の塩(兼常清佐先生と語る) 五十歳の役(田村秋子夫人と語る)
 頭の中の自動車(山田耕筈先生と語る)
 結婚前駆症(佐藤美子さんと語る) 独逸語春秋記(石井漢氏と語る)
 幻の女王牌(高田せい子女子と語る)
 外征始末(北村小松氏をつかまえる) 青痰(城戸四郎氏をつかまえる)
 大将の刀(北原白秋先生にきく) 芥子粒夫人(太田綾子氏にきく)



金魚の黒焼(蛇の小父さん廣瀬巨海氏にきく)

広告球の鳶(小鳥の小父さん中西悟堂氏にきく)

アンケート回答 冷水 身の上相談・迷路案内 探偵作家四方山座談会

連作「キヤラコさん」に就て 商船護衛艦隊中支隊軍対談会 海軍歩兵

猿の最後の一匹まで クーパンの秋 酒保

給養 艦隊・航空決戦を語る 兵隊三姿 水谷準君に贈る 空旅

日の丸 身を固めるために 歌舞伎教室 断定はまだ早い

時計と賞金 オール新人杯選評 対談・話の泉 母子像作者の言葉

馬琴のクイズ 作者の言葉(祖父つちやん) 作者の言葉(内地へよろしく)

作者の言葉(十字街) 作者の言葉(われらの仲間)

作者の言葉(あなたも私も) 作者の言葉(ココニ泉アリ) 作者の言葉(氷の園)

放送台本 従軍日記(完全版) 短篇異稿(湖畔「海豹島」等六百枚)

ほかを予定

解題◆江口雄輔・川崎賢子・沢田安史・浜田雄介

第11巻 【翻訳】

ISBN978-4-336-05054-0

天啓 夜の遠征 犯罪の家 ジゴマ フアントマ ルレタビユー

第二フアントマ 第二ルレタビユー 鉄仮面

書誌年譜

解題◆江口雄輔



◎編集内容 収録順については一部変更の可能性があります。あらかじめご了承下さい。
 【資料提供のお願い】
 小社では、現在、久生十蘭が一九四五年の東京新聞に連載した「をがむ」及び一九四六年「生」に発表した「九郎兵衛の最後」、一九四四年「戦線文庫」に発表した「空襲決戦と敵艦撃沈法座談会」を捜しております。資料をお持ちの方のご協力をお願いいたします。

湖畔

この夏、廻処ない事情があつて、箱根蘆ノ湖畔三ツ石の別荘で貴様の母を手につけて、即日、東京検事局に自訴して出た。審理の結果、精神耗弱と鑑定、不論罪の判決で放免されたが、その後、一月も経たぬに、端無くもまた刑の適用を受けねばならぬことになつた。これは普通に秩序罪と言はれるもので、最悪の場合でも二年位の懲役ですむから、このたびも逸早く自首して刑の軽減を諮るのが至当であらうも、いまや自由をたいする烈々たる執着があり、一日といへども囹圄の中で消日するに耐へられぬによつて、思ひ切つて失踪することにした。

いづれ貴様も諒解することと思ふが、俺の四十年の人生は、あたかも旧道徳と封建思想の囹圄内を彷徨するイルンシヨ一製「クロノメートル」の指針のごときもので、自己一身のほか、なにもをも愛さず、思料せず、体面を繕ふことばかりに汲々たる軽薄浅膚な生活が続けてゐた。最近、測らざる一婦人の誠実に逢着し、俺の過去はあまりにも虚偽に満ちちて

居たことを寛り、新生面を打開しようと決意したが、俺は薄志弱行の徒で、実社会に身を置くかぎり、因習に心を煩はされて到底自己に真なることができぬと思ふから、一切の齟齬を断切つて無籍準死の人間となり、三界乞食の境涯で、情意のおもむくまゝ、実誼無難の余生を送る所存なのである。失踪と言ひ準死とは言つても、俺のやうな身分の者にたいしては、簡単に事を済ましてくれぬ。事後、思はぬ煩ひが惹起つて、貴様に累を及ぼしてはならぬから、適当な時期に死亡の認定が得られるやう、その方の処置もして置いた。俗見の傀儡同様だつた俺の半生を諷刺し、俺を悲運に沈湎させた卑小な氣質に報復するのに、これこそは恰好な方法だと思つた。のみならず、それによつて貴様は七年の失踪期間を待たずに家督を相続することが出来、俺は速かに社会から忘却せられる便利があるからである。

俺は自筆証書で松尾治通を貴様の後見人に指定し、保佐人を従兄振次郎に依嘱して置いた。どちらも廉直親切な人物だから、それらの庇護によつて、蹉跌なく丁年に達するものと思ふ。二歳にもならぬ幼少の貴様を捨去るのは、情において忍びぬが、これも止むを得ぬ。俺と情人の新生活内には、何者も介在することをゆるさぬ。但し、捨去るために貴様を生んだのではない。貴様は母の愛とホープによつて出生した。それ等の事情は、すべてその後を生じたのである。俺は子にたいする父の礼儀として、かうなるまでの事情を仔細に書きつけておく。

全巻購読者特典案内

特製DVD

『挿絵とともに見る『初稿・顎十郎捕物帳』』

全巻購読の読者にもれなく進呈



さる大家の老老職が、持ち込む奇々怪々の難事件、顎十郎果して見事解決するや？

(一) 客の名札

『客の名札』は、顎十郎の初稿の小説に、松尾治通の御筆の挿絵を添へて描き、金吾の筆頭に執筆を執りし見事な難事件を、今村恒美画伯が描くすばらしい挿絵とともに、小説発表当時の雰囲気を感じながら『顎十郎』の初出誌ヴァージョン(単行本とは大きく異なる)が見られます。



顎十郎捕物帳 今村恒美画伯

野伏大名

【内容】

久生十蘭が昭和14年1月から昭和15年7月まで雑誌『奇譚』に連載した傑作小説『顎十郎捕物帳』のうち10数編を、雑誌掲載の形のまま収録したDVD。今村恒美画伯が描くすばらしい挿絵とともに、小説発表当時の雰囲気を感じながら『顎十郎』の初出誌ヴァージョン(単行本とは大きく異なる)が見られます。

『定本 久生十蘭全集』(全11巻)を全巻購読された方々に、もれなく特製DVD「挿絵とともに見る『初稿・顎十郎捕物帳』」を無料で差し上げます。下記の方法でご請求下さい。

ご請求後、2か月以内にお届けします。

【請求方法】

『定本 久生十蘭全集』の配本開始後、各巻の帯に刷り込まれる特典シールを切り取り、全巻分の計11枚を「全巻購読者特典DVD請求カード」に貼って「国書刊行会 営業部 久生十蘭係」へお送り下さい。請求締切は最終回配本の6か月後とします。なお、特典シールは官製集書に貼ってご請求いただいても結構です。